

基本的な考え方

- 政府の目指す「Society5.0」の実現に向けては、第4次産業革命(IoT、AI、ビックデータ、シェアリングエコノミー等)のイノベーションを、あらゆる産業や社会生活に取り込み、あらゆる場面で快適で豊かに生活できる社会を目指していく必要。
- IoTやビックデータ等の活用により、個人が様々なサービスを利用するためには、その前提として、安全で確実な個人認証基盤が重要であり、マイナンバーや公的個人認証サービスをより利用しやすいものにしていくことが求められる。
- 現在、マイナンバーカードにマイナンバーと公的個人認証サービスが一体的に搭載され、個人認証基盤としての役割を有しているが、更にその先の将来を見据え、誰でも手軽に負担感なく使えるSociety5.0社会にふさわしい個人認証基盤や現在のPIN入力に代わる多角的な認証手段のあり方及びその課題について議論する。

※Society5.0:「①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に次ぐ、人類史上5番目の新しい社会(超スマート社会)。新しい価値やサービスが次々と創出され、社会の主体たる人々に豊かさをもたらしていく。」(第5期科学技術基本計画、未来投資戦略2017)

現状の認証技術

方式	具体例	主たる特徴	
		利点	留意点
記憶 (知識)	暗証番号、パスワード、質問応答 等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用・変更が容易 ・広く普及している 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘却の可能性 ・推測による攻撃が可能 ・虚偽メールによる詐欺、資料盗取や会話盗聴による不正入手 等
所持物	ICカード、身分証明書、磁気カード、USB、携帯電話、パスポート 等	<ul style="list-style-type: none"> ・暗号技術が併用可能 ・操作が容易である ・偽造対策技術が存在 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・暗号方式の強度に依存 ・紛失・盗難の可能性 ・スキミングへの警戒 ・製造・設置コストが必要 等
上記以外	筆跡、音声、顔、指紋、虹彩、静脈、行動パターン 等	<ul style="list-style-type: none"> ・忘却・盗難がない ・偽造困難なものが多い 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・無効化が困難 ・偽造の可能性 ・心理的抵抗感 等

検討スケジュール

- 平成29年11月29日設置。懇談会での議論を重ね、その内容をとりまとめ、報告。

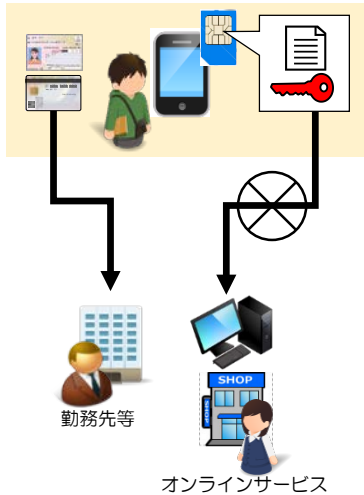
Society5.0を見据えた個人認証基盤

スマートフォンへの電子証明書搭載

スマートフォンからマイナンバーカードの全機能を利用

スマートフォンに全機能を搭載

- 【概要】
- スマートフォンに電子証明書を搭載
 - 顔写真付き身分証明、マイナンバー提示は、カード活用



【構築が必要なシステム】



【その他の主な課題】

- SIMカードの抜き取りによる電子証明書なりすまし利用のリスク

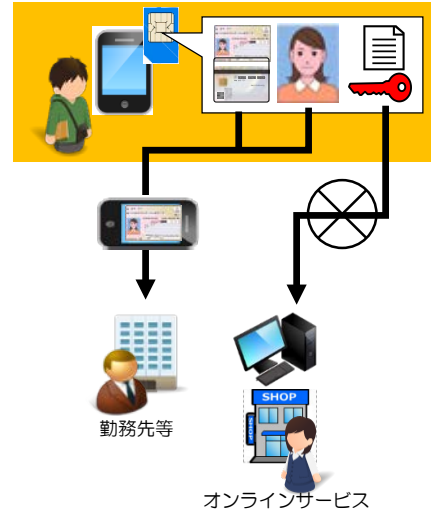
- 【概要】
- スマートフォンに4情報、マイナンバー、顔写真、電子証明書を搭載
 - 顔写真付き身分証明、マイナンバー提示は、スマートフォン画面表示

【構築が必要なシステム】



【その他の主な課題】

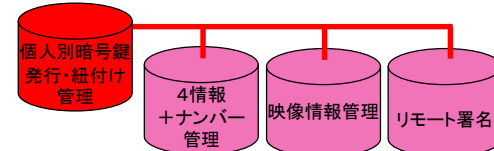
- 4情報、マイナンバーを搭載することによる、SIM抜取りの損害リスク増大
- スマートフォン表示画面の偽造・改ざん(なりすまし)の懸念



外部システムに保管される全機能呼び出して利用

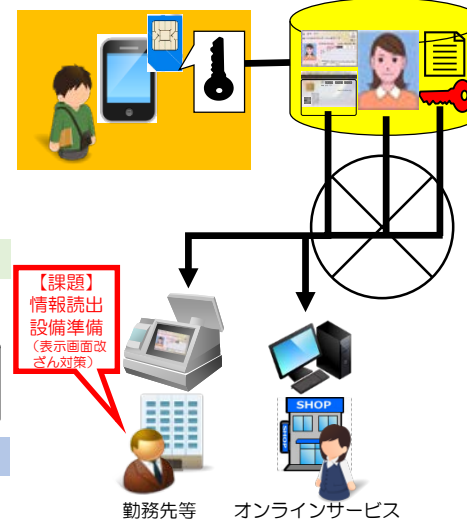
- 【概要】
- スマートフォンに暗号鍵搭載。別途管理する4情報、マイナンバー、電子証明書を呼び出して利用
 - 顔写真付き身分証明、マイナンバー提示は、受付者側の画面表示で対応

【構築が必要なシステム】



【その他の主な課題】

- 勤務先等での読出設備準備、新たに構築するシステム等の社会コスト大



誰でも手軽に負担感なく使える Society5.0社会にふさわしい個人認証基盤

